芸術科

教科	芸術	科 目 名	書道Ⅰ
科目の目標	本校における「書道Ⅰ」では、書芸術に対する理解、および感性・創造性の育成、ならびに表現力の向上を目指すとともに、書を通して主体的に生き、さらには生きがいと潤いのある生活が送れる基礎的な力を養うことを目標とする。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単 位 数	1単位	履 修 形 態	選択
教 科 書	教育出版書道Ⅰ	副 教 材 等	墨心（北海道高等学校書道教育研究会）

①学習の目標

表現および鑑賞の諸活動を通じて、書芸術を理解するとともに、青年らしい感性および個性の伸長を図り、生活をより豊かにしようとする創造性の基礎を培う。

②学習内容と授業の進め方

（1）書の表現には多様な方法、無限の可能性があることを学ぶ。
（2）創作書において、主体的・創造的な語・詩文の獲得をめざす。
（3）古典に基づく表現を理解し、その用筆・技法を学ぶ。
（4）母校、郷土及び平和に関する教材を学び、人格形成を図る。

③学習に当たっての留意点

本校「書Ⅰ」の履修にあたって留意すべきことは、次の５点とする。
（1）「書」の新しい見方や表現に興味・関心を持ち、積極的に挑戦する。
（2）常に前回より一歩成長、工夫・向上の跡を残すよう努める。
（3）その時間ごとの準備、作品ごとの制作上の留意点を必ず確認する。
（4）忘れ物をしない。早く教室に集合し、準備をすばやく行う。
（5）常に題材とする語・詩文の取材、収集に努める。

④評価の観点　　*旭東DPとの関連（表現力・共感力・探究力・創造力が身についているか）

（1）関心・意欲・態度【関】	芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
（2）芸術的な感受や表現の工夫【芸】	感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。
（3）創造的な表現の技能【創】	創造的な芸術表現をするために必要な技術を身に付けている。
（4）鑑賞の能力【鑑】	芸術を理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

（1）作品ごとに、上から5～1の5段階表示をし、当該作品制作における「ねらい」が概ね達成されているものを3（並）とする。
（2）学期ごとの評価は、当該学期内の作品評価点をベースとし、努力の姿勢、向上の跡、工夫の跡などが見られる場合には加点し、反対の場合は減点する。その際、上記③の5項目についても評価の観点とする。なお、評価点は、教務内規に則り、100点法で表示をする。
（3）学年評価は、上記（2）の方法により、年間を通して算出する。
（4）評定は、学年評価を教務内規によって換算し、5段階表示をする。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など（観点項目を記入）
4	テーマ作品制作①	「情景の表現」詩の情景を表現する工夫	1 書の美を理解しようとし、進んで自ら書の表現に努めようとしているか。 【関】【鑑】 2 作品の題材としてふさわしい選文および用具用材の選定ができるか。 【芸】【創】 3 表現意図に即した線質・造形・墨色・紙面構成がなされているか。 【芸】【創】 4 用具用材の特性、表現効果などを理解しているか。 【創】
5 6	テーマ作品制作②	「詩を書く」宮沢賢治の詩を読み、得たイメージを膨らませて作品化する。 相互に作品を鑑賞し、書の表現効果を理解する	
7	生活の書	うちわ制作	
8 9	漢字の書	「書体の変遷」臨書作品制作(篆・隷・行)	
	テーマ作品制作③	大字作品	
10 11	学生展出品作品制作	展覧会出品作品制作（北海道学生書道展）	1 書の美を理解しようとし、進んで自ら書の表現に努めようとしているか。 【関】【鑑】 2 作品の題材としてふさわしい選文および用具用材の選定ができるか。 【芸】【創】 3 表現意図に即した線質・造形・墨色・紙面構成がなされているか。 【芸】【創】 4 用具用材の特性、表現効果などを理解しているか。 【創】
12	テーマ作品制作④	「北人」「シマレガンバレ」（アルバム）題字制作 「先輩へのエール」作品制作、全員展示 「自分へのエール」カレンダー作品	
1 2	仮名の書 テーマ作品制作⑤	基本的な線質・連綿の技法・作品制作 色紙作品制作	
3	年間のまとめ	作品鑑賞、年間反省	

※思考力・判断力向上のために(通年)
生徒同士で作品を鑑賞し合い、よりよい作品にするための方法を提案する。提案に基づいた作品作りと振り返りを行う。